

# 「地域での支え合いを」

## 区が福祉保健計画の素案発表



区民一人ひとりの参加が基本

磯子区は平成23年度から取り組む第2期・区地域福祉保健計画「スイッチON磯子II」の素案をこのほど発表した。第2期では、区民全員が取り組むべき課題を、見守りによる地域の支えあいと、災害時の要援護者の地域でのサポートの2点に絞り込んでいる。

「スイッチON磯子」は、磯子区版地域福祉保健計画の愛称のこと。区民一人ひとりや地域活動団体、区役所、区社会福祉協議会が力を合わせ、高齢者や障害者支援、子育てなど、地域の福祉をどのように支えていくか、その取り組むべき

方針がまとめられている。第1期は平成18年度から5年計画で実施されており、今年度が最終年度となる。そこで、区や区社協では、来年度から始まる第2期計画「スイッチON磯子II」について検討を開始。医師会や障害者団体、青少

年指導員、民生児童委員、地区連合の代表者などで構成される策定委員会で議論を重ね、素案をまとめた。

### テーマは2つ

第1期では、狭い道路での自転車マナー向上など、福祉や保健に直結しない生活課題全般も盛り込んでいたことから、第2期では、共通テーマを2つに絞り込んでいる。1つ目は「地域の支えあいの推進」。2つ目は、「災害時の要援護者の地域でのサポートの推進」。

「地域の支えあいの推進」は、区が行っている地域支えあい事業を発展させたもの。同事業では、ひとり暮らしや寝たきり高齢者などを、民生委員や保健活動推進員などが定期的な訪問し、見守りを行っている。しかし今後は、見守りの担い手が不足すると予測さ

れる。計画素案では、地域住民に対し、散歩や買物の外出時に電気や郵便受けの状況に気を配り、変化があれば民生委員などに連絡することを呼びかけている。

2つ目の「災害時の要援護者サポート」では、いざというとき自分だけで行動することが難しい高齢者や障害者を、地域でサポートする仕組みづくりを提案。すでに一部地域で行われている取り組みを紹介しながら、地域に合った制度づくりを求めている。

区では7月末まで、素案への意見や提案を募集している。区福祉保健課は、「15年後には、65歳以上の方が全人口の30%を超える高齢化を迎え、公的サービスだけで福祉を支えることが困難になる。今から、家族が支える自助、地域やボランティアで助け合う共助の3

本柱による支援体制を、地域に整備していく必要がある」と話している。

# ワゴンニュース

■磯子区版/No.177 平成22年5月20日(木)号